

【はじめに】

卒業論文提出まで約1ヶ月となりました。私は今年の今頃、本文の執筆は一通り終えており、論述の確認をしたり、内容をより良くしようとしていたりして試行錯誤を繰り返していました。しかし、展望が見えず作業も滞り苦しい時期でもありました。本日は私の経験を踏まえて、残り1か月やるべきことを伝えようと思います。

【論述について】

- ・卒業論文の文体、註等の文体は「である」調に統一する。(→引用文はそのまま使用。)
- ・客観的な事実（「～である」等）と、著者の意見（「～と考える」等）の区別を明確にする。
- ・一度書式合わせて、実際の自分の進捗を確認する。(→文字数ではなくページ数で確認)

<読み直し/見直し>

この作業は最も重要と言っても過言ではなく、様々な観点から文章を見直しておく。
→パソコンの画面だけではなく紙媒体で読む。また、他人(先生、先輩等)に読んでもらう。

☆おすすめチェックポイント1 [内容/文章の一貫性]

- ・結論において何を言いたいのかを明確にしておき、論点に矛盾やズレが無い確認する。
- 結論まで書いて序論をふりかえる等、論全体に一貫性があるか確認する。

☆おすすめチェックポイント2 [誤字脱字/文法]

- ・文法・主述の関係・接続詞・指示語・日本語等の確認をする。
- ・誤字脱字チェック(→共通のミスは Word 検索機能/置換機能を活用。)

<資料の質を見極める>

- ・同じ分野/内容であっても、著者の立場や考え方によって資料の性格は変わる。
- 複数の先行研究を確認し、広い視野を持つように心がける。

<正しい単語/言葉の意味を認識しておく>

- ・意味を理解したうえで単語/言葉を使うようにする。→複数の辞書で確認し、的確な使用。
- ※理解していない言葉/単語は使わないようにする。

【書式について】※書式にミスがあれば受理されない。

- ・書式は細かく決められているので、『卒業論文作成マニュアル』を確認すること。

<装丁、中表紙、目次、本文、註、参考文献、資料等、細部まで確認>

<指定枚数(序論・本論・結論のページ数)の許容範囲>(※文字数ではない)

22.5 ページ以上 (縦書：23 枚目の 8 行目以上／横書：23 枚目の 13 行目以上)

※25 ページを超過する場合は、指導教員の印鑑を中表紙に押しもらうようにする。

<引用>引用文であることが一目で判別可能なように明示しておく。

<行間>論(序論・本論・結論)：3行、章：2行、節・項：1行

見出し項目がページの最後の行になる場合は改ページをしてもよい。

<参考文献>

「書籍の部」、「論文の部」等、必要に応じて分類したリストにし、論文の末尾に掲載する。

【口述試問】

<正誤表の作成>

・誤字脱字等があれば作成し、口述試問の際に試問担当教員（主審、副審）に提出する。
→提出するまでミスを防ぐのは当然だが、提出後はほとんどの人が作成することになる。

<要約／要旨の確認>

・自分の論文を端的に説明が出来るようにしておく。
→序論(問題提起)と結論を中心に全体の流れを把握しておく。

【注意事項】

<先生との面談/先輩に相談>

・一人での作業は、方向性が曖昧になり、他人が理解できないものに成りかねない。
・不明な点をそのまま／勝手な判断で解決するのは危険。
→先生への相談は失礼の無いように事前に連絡をするようにしておく。
→先生への質問は、曖昧な質問ではなく、なるべく具体的な質問ができると良い。

<バックアップ>

USB、クラウド(Gmail)等、保存場所を複数に分けてデータを失わないようにしておく。

※コピー&ペーストは言語道断

【おわりに】

卒業論文は大学生活の集大成と言われますが、その通りだと思います。その後の人生において卒業論文の執筆経験の有無は大きな差になるのではないのでしょうか。

入学した段階で提出は決まっており、就職活動、教職課程、アルバイト、部活動、サークル等は言い訳になりません。最後まで気を抜かずに、質のいい論文を目指してください。